



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963
 (株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
 E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



多くの感動を与えた東京五輪が閉幕し、今回は史上最高のメダルを獲得しました。
 また、日本選手団のうち三重県出身者など県ゆかりの選手が19人と過去最高で、鳥羽市出身でフェンシング男子の山田優選手や四日市出身のレスリング女子の向田真優選手の二人が金メダルを獲得するなど、素晴らしい結果でした。
 つづくパラリンピックも期待大です。更なる感動が待っていると思います。
 さて、今回のオリンピックメダルの金銀銅は廃棄されたパソコンや携帯電話から取り出されたいわゆる都市鉱山から提供された金属でまかなわれたということで、金は約32kg、銀は約3500kg、銅は約2200kgが確保されたそうです。
 なお、家庭用パソコンであれば2003年10月以降の生産家庭向けモデルであれば無償回収してもらえるそうですよ。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

話題の多いオリンピックでしたが、日本の技術が多くの選手を支えました。
 競泳2冠を達成した大橋選手を支えたミズノの水着や、陸上選手達をスポンサーしたアシックス、住友ゴム(ダンロップ)のテニスボール。
 また、自転車競技(ケイリン)の先導者は、パナソニックの電動アシスト自転車でした。
 技術大国ニッポンの健在ぶりをアピールできたのではないでしょうか。



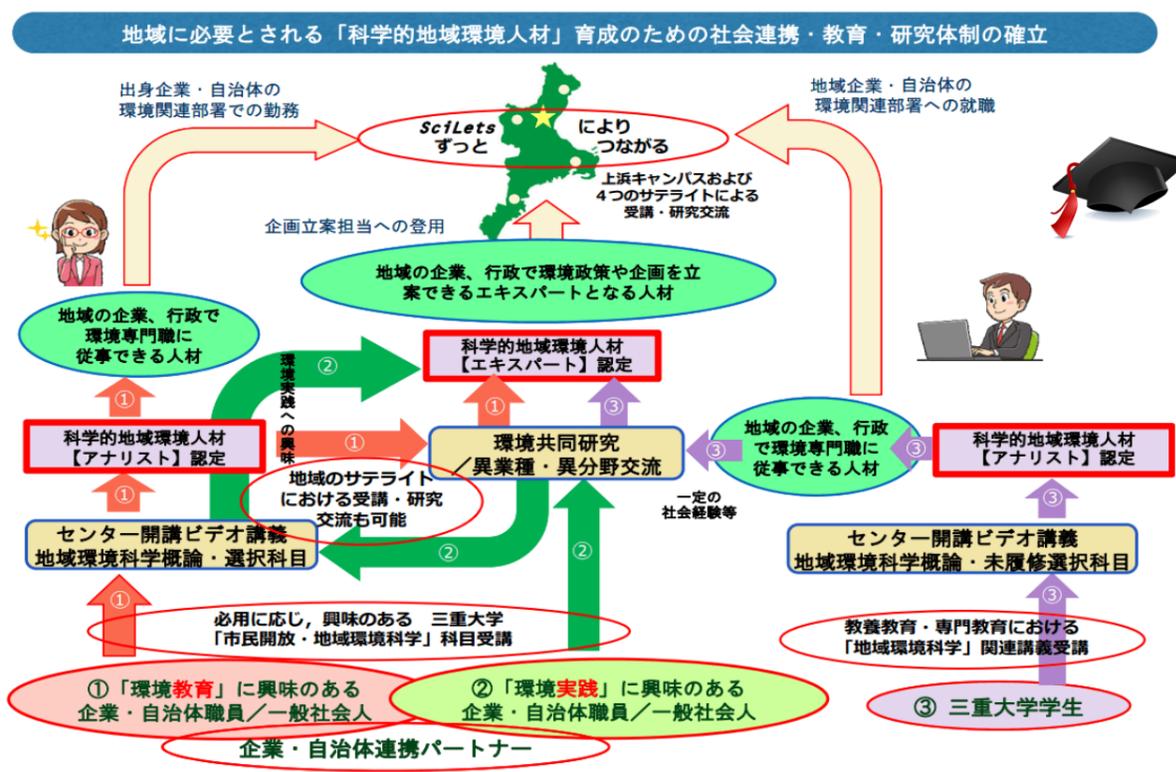
5 ジェンダー平等を実現しよう

SDGsへの取り組みは、環境問題が専ら取り上げられがちですが、日本が最も世界的に問題視されているのはジェンダーではないでしょうか。オリンピック開催前にも何かと物議がありましたが、このほど発表された「ジェンダー・ギャップ指数2021(男女の平等度合)では世界156ヶ国中、日本は120位です。ちなみに主要7ヶ国中、最下位です。



今回、三重大学の科学的地域環境人材(SciLets:サイレッツ)育成事業をご案内します。

これは、地域の環境問題から地球規模の環境問題まで、オンラインで学術的に学ぶ仕組みです。さらに、SDGsについても学ぶことができます。
 三重大学サイレッツ育成事業では、所定の講義を受講し、それぞれの理解度確認テストに合格することにより「環境学習要件」を満たし、その事実をもって申請した受講者には、【三重大学 科学的地域環境人材 アナリスト】さらに前述の「環境学習要件」に加え、申請により環境実践において十分な実績「環境実践要件」が認められた受講者には、【三重大学 科学的地域環境人材 エキスパート】と称することができる資格が授与されます。環境問題に関連する学術分野は広範にわたり、それぞれの分野が相互に関連します。認定証書(書類)と認定証(カード)科学的地域環境人材(サイレッツ)アナリスト/エキスパート資格は、認定された後、被認定者が当事業に参加している限り有効です。
 書類の「認定証書」と異なり、携帯用のカードである「認定証」には有効期間があります(力量継続の保証のため)。この認定証(カード)を更新するためには、5年ごとに「資格認定証更新条件」を満たした後に申請する必要があります。
 なお、エキスパート資格にはアナリスト資格が包含されていますので、資格の正式名称は、【三重大学 科学的地域環境人材 アナリスト】あるいは【三重大学 科学的地域環境人材 エキスパート】のいずれか1つです。
 これらの正式名称のほか、それぞれ【三重大学 サイレッツ アナリスト】あるいは【三重大学 SciLets アナリスト】、および【三重大学 サイレッツ エキスパート】あるいは【三重大学 SciLets エキスパート】の表記も正式名称に準じます。



東京オリンピックの聖火台は大会史上初めて燃料に水素が使用されました。従来のようにLPガスを使わず、CO2の排出に配慮して使った水素は燃焼時に無色透明なことから炭酸ナトリウムによる炎色反応で着色し、自然な炎の色にしたそうです。

